

平成30年度 日本大学総合科学研究所
個人研究費 研究実績報告書

所 属 総合科学研究所
資 格 准教授
氏 名 中村律子



研究課題	コーチングの教師モチベーションとチームビルディングに対する効果について
報告の概要 研究目的及び研究概要	今年度も引き続き日本語講座プログラム総コーディネーターとして講座運営を行いながら「講師モチベーションの向上と望ましいチームビルディング創り」についてコーチングの視点から実践研究を行なった。日本語教育はチームティーチングで行なわれることが多く、教師間の連携とチームワークは、授業の成功、具体的には学習者の到達度や満足度に大きく影響するためである。現場の教師のモチベーションがあげるための方法論を探るため、特にコーチングに関する文献サーベイと実践を行なった。具体的にはマネジメント、コーチングに関するワークショップ等に参加、アカデミック・コーチング学会の研究会に参加するなどし、コーチングのあり方、方向論を実践研究した。フィンランド国家ソーシャルワーカーが開発した「C×3ブースター」(コミュニケーション、コラボレーション、コーポレーションの3つの要素を高めるためのコミュニケーションカードツール)を用いた日本語講座初の教職員研修を実施。また、講師のキャリア面談、C×3ブースターワークショップワーク等を実施した。週1回実施している各クラスコーディネーターのクラス報告の際は、コーチとして関わることを心がけた。各クラスのコーディネーターは、2ヶ月半という短期集中プログラムの中で2回の総コーディネーターに報告を行うとともに、担当教師間で情報共有とゴールの共有を行うこととした。学生一人ひとりの現状と課題を総コーディネーターに報告して終わる、または、学期が終わってから課題を報告するのではなく、学期途中に担当教員全員で情報と課題をシェアし、目標ゴールを共有、担当者全員で取り組むシステムを構築した。自分ごととして課題を解決改善していく協力しあうチーム創り、協働する教師マインド育成である。

	研究成果	教職員研修では、講師、職員双方から「今まで知らなかった同僚の側面を知ることができた」「とても良かった」「継続してほしい」という肯定的な感想が寄せられた。日本語講座全体として協力し合う文化が生まれつつある。さらに、初級と中級というクラスレベルが違う講師同士の連携によりフォトロゲーションなどの教材が生まれつつある。複数の講師が新しい教材や教え方（コーチング的なかわりを具体的に示した日本語ワークシートの開発、一般に開かれたオープンプレゼンテーション等）にチャレンジしている。数人の講師から来年度の学会発表を視野に入れた萌芽的研究が複数同時進行している。必修クラスの講師が選択科目クラスの課題、探究に協力し、研究が成功するなど、今までに見られなかった新しいダイナミズムがうまれている。
研究活動	・雑誌論文 著書名・論文表題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・頁数 ・学会発表 発表者名・発表表題・学会名・発表年月日・場所 ・図書 著書名・出版社名・署名・発行年・総頁数	「学習者の主体的な学びを実現するためのカリキュラム構築—日本大学日本語講座におけるカリキュラム構築の過程と実践—」ポスター発表 平成30年10月28日 日本語教育学会 2018年度第4回支部集会【関東支部】にて（於 文化外国語専門学校）